

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak

LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

不破侍左衛門
 名古屋山三

昔語箱妻衣紙八



八遠13
 1884
 8止



へ連19
1884
8上

昔話 稻妻表紙巻之五 下冊

本清

江戸 山東京傳編

十九

刀剣の稲妻

その時麻呂はたぢ小幡の里みりて山三郎ふその日子細をほ
らきみりて葛城が誠心を告あふふいとほく存ざりせめて一度は
かの地みり越あつて御對面あはしとさあけと山三郎いひけり
五條坂小葛城といふ名妓ありといわれその子同はるその者高間茶
右赤門の娘岩橋をてあんと夢あつてもあざりたかの者の親くの得心を
某といひるげけの女わらうといふも今花街小あちぢりわがれの身こ
かりたる女小對面せんい武士の名をけがすと不似たり。かれが志の不便なり
とのつもの對面ハカあふなごまごといふ。麻呂のひけりたるりけり

名古...

そいたづらと葛城ぶの物つりをまきけバ頃日雲小稻妻の衣裳を着
たる侍五人つらぐの地小往來するは。そのうち一人の者ふらぐひは。これのひめて推量の
めて外の深層の三平等四人の者ふらぐひは。これのひめて推量の
ごとく。相公をはり出しつてつらむせん謀計ふまされ。先だちて御
父君夢中不告玉ひいはいまていん殊更葛城ぶの誠心うごかす所
あけとバ一度の地小おんにありて葛城ぶのをたのむむひ。のれぐ計
のくくをのれ内外より相番をささぐ。五人一等お取玉の良計と
あがま不しけと君父の讐の共小天を戴どとやせば。眼前の敵をえて
時を失ひ玉のんこと。ゆめくあ。だるごと復讐の為花街ふらぐとあふ
こと。つらぐ耻玉のんやとつらけぬ山三郎げあもさうとあひ。その夜麻
呂を鼻一志のびやうふして五條坂おのりて。神林かりて瓜たぐりて葛

城小對面しけと葛城ぶのひつらもあがと山三郎の露をらもあが
ゆめたる詞のやく。終夜只復讐の計を談して朝まごれみつらとつらぬ
つらうり后葛城ぶのり。金銀衣服をさうとて山三郎をさふ心。誠
をささびけと山三郎いたぐひすれなる女めると感歎おたへさうりけと葛
城ハ伴左衛門が面又知れど。ゆづとをいづれとつらたの山三郎毎夜麻
呂をの地小はして五人の者お取玉便宜をぞ待らる。麻呂の深さ
望み顔おし袈裟衣を着し物乞のた坊お打捨て志のびつらら
とと。あうりといつらも五人の者おつら。往來して五人一同お来ることなく
りつらつら踏をほけつらとつら。つらも飯路をちえてつらつら住野
左衛門童勝ハ浪この身といつら。密に父道たつらつら扶助つら

一点の不足あり。笹野蟹丸。藻屑の三平。土子泥助。大上雁八等。四
 人の者をめくまひおこして。父が大望をこころ時節を待。紀伊の国藤白
 山の真小大なり。居室を造つ。野伏浪人ともをあると召抱て。よと
 父と共に瀧名入道。味方よ。元結構。専なり。志とよ。とも名古
 屋山三郎。在るあり。うち。寝覚。安つど。元来。ゆ。小。草履。おの。遺恨
 あ。と。バ。こと。め。れ。が。親。も。誤。り。て。打。た。れ。ゆ。あ。は。して。め。ど。は。つ。り。お。お。お
 や。と。る。ひ。け。い。ご。ら。も。その。ゆ。へ。弗。小。志。と。さ。れ。い。せん。と。ぶ。り。お。過。け。る。が
 頃。日。京。都。小。居。住。ま。り。は。偶。同。出。し。て。め。の。四。人。の。者。を。あ。ま。り。て。俄。小
 上。京。し。伏。見。の。里。小。寓。居。し。て。人。の。又。知。り。た。り。一。様。の。襲。束。し。て。五
 條。坂。小。往。来。し。山。三。郎。を。使。て。出。し。て。め。つ。て。お。お。せ。び。や。と。さ。る。て。け。り。う
 前。の。日。大。上。雁。八。の。地。あ。て。三。本。傘。の。紋。は。け。た。り。侍。小。出。あ。ひ。誼。誼。小

夏。よ。せ。て。さ。ら。う。は。ら。ふ。ま。は。し。く。め。つ。か。僕。麻。丸。と。え。の。ゆ。が。山。三。郎。當。国。の
 うち。小。居。住。し。果。し。て。我。等。が。計。み。お。ち。て。我。く。を。は。け。け。け。ふ。ふ。ふ。ふ。ひ
 ち。つ。の。あ。は。は。ら。う。を。め。つ。て。お。お。せ。び。や。と。商。議。し。て。ゆ。く。曲。中。小。入。み。り
 が。彼。等。元。来。好。色。の。輩。なり。は。伴。左。衛。門。の。若。木。が。お。の。遠。山。と。い。ふ
 阿。曾。比。小。な。り。と。を。め。その。餘。の。者。等。も。それ。く。お。お。せ。び。と。得。て。の。ち。あ
 山。三。郎。を。お。ん。計。は。つ。さ。ふ。り。り。一。向。遊。真。小。の。と。ひ。ぬ。と。つ。い。中。ね。誠。是
 愚。者。あり。あ。ま。ひ。ち。あり。切。山。三。郎。の。専。切。ゆ。ら。を。打。げ。便。宜。を。ま。ら。け。り
 小。一。日。麻。丸。の。の。地。より。あ。は。た。し。く。飯。来。り。て。葛。城。が。書。を。は。し。出。し。け。ぬ。
 山。三。郎。い。と。い。ふ。く。これ。を。読。み。今。夜。伴。左。衛。門。等。五。人。の。者。一。等。小。若。木。が
 うち。小。来。り。は。し。同。出。し。ぬ。朝。の。未。明。お。つ。る。は。同。ぬ。ゆ。が。堤。小。お。つ。る。は。待
 ち。て。討。取。玉。へ。つ。か。ま。り。ど。い。は。時。を。過。し。玉。ふ。が。ふ。ど。と。こと。み。ド。う。お

ちよじたりし山三郎こと河誦おりし天地を拜しおどろあがりしをなび
 けり。麻糸もいさよなち。何とぞ主君の敵なりぬべ。助太刀をこへや
 しいらふれがしとれがふらりともらう望けられぬ。敵大勢を小臆
 こそ助太刀をもちひちるんぞ。壱の入口わらんも口をけりけり汝をこ
 もまりんことわらふべしとどのいふ麻糸涙をなじ。あつらういせめて
 みの所まで御供をこほしあられしおん息つきの水までとまみりて
 此とどのいふ勝手次第なるべしといふを。麻糸泣き食事を調じ
 てまじりまじり何れと支度して時刻のゆるをまら。山三郎へつご
 と曲中へ通ふたれ男の体お打粉父のつらみの左文字の刀をか
 びその夜の二更の頃より五條坂の長堤ふらり。朧月夜を幸小麻
 糸も夢島のうらふををりして。時のゆるを待たけり。い時へ

是の時の時ぞや。寛正五年三月下旬とく。折しも春雨の暗間あて
 道ありけり。常々往來あけ堤なるべし。あつらう人も人たえんぞ。
 ちよじたりし山三郎こと河誦おりし天地を拜しおどろあがりしをなび
 けり。麻糸もいさよなち。何とぞ主君の敵なりぬべ。助太刀をこへや
 しいらふれがしとれがふらりともらう望けられぬ。敵大勢を小臆
 こそ助太刀をもちひちるんぞ。壱の入口わらんも口をけりけり汝をこ
 もまりんことわらふべしとどのいふ麻糸涙をなじ。あつらういせめて
 みの所まで御供をこほしあられしおん息つきの水までとまみりて
 此とどのいふ勝手次第なるべしといふを。麻糸泣き食事を調じ
 てまじりまじり何れと支度して時刻のゆるをまら。山三郎へつご
 と曲中へ通ふたれ男の体お打粉父のつらみの左文字の刀をか
 びその夜の二更の頃より五條坂の長堤ふらり。朧月夜を幸小麻
 糸も夢島のうらふををりして。時のゆるを待たけり。い時へ

名古屋山三郎
とよやうさうつしぎ
五條坂の堤交
くさけ
白富のうち小あまて
伴五馬門等五人の
あつとん待父の
仇とむくりん
とと



名古屋山三郎なる。父の如く覚悟せよと云ふ。氷刀も力を抜
 る。世の侍高くとあがき、笑て編笠をぬれんとて。以方よりたつねも
 けり山三郎。さぞあひし。天の多へつを折らるぞ。観念せよと云ひて
 抜合せ。二太刀三太刀戦けり。山三郎もさぞれを刀をうけ。損下を架
 沙衣。斬さけられて。地よ小撲地。たあを。山三郎。麻糸を引りて。
 彼奴が面をよく。えり。と。いふ。ふぞ。麻糸より。髪をほりて。ひねおにじ。
 月かげふまじ。と。以者。土子泥助。をゆり。山三郎。うまづく。間もか
 く。又おほし。ごとく。お打扮。侍一人の。さぞ。つと。あや。来る。山三郎
 即ち。おまじ。う。汝。不破伴左衛門。う。山三郎。父の仇を報之
 こと。ひつ。まり。ほ。侍も。笠。と。と。刀を抜。う。う。な。七八
 合戦。泥。山三郎。飛。つ。胸。小陸

離。んと。斬。と。一。腮。を。以。て。下。知。と。ま。う。を。し。く。走。り。より。月
 の。光。を。面。に。照。して。以。者。上。雁。八。を。ゆ。り。お。は。じ。打。扮。の
 侍。一。人。と。来。る。山。三。郎。ち。ち。と。立。つ。ひ。い。小。伴。左。衛。門。と。い。ふ。山。三。郎
 ち。ち。と。父。を。お。は。じ。恨。の。刃。を。ひ。ま。じ。と。い。ひ。つ。斬。は。く。と。編。笠。を
 ぬ。れ。と。て。刀。を。抜。て。さ。り。し。と。び。丁。と。ま。と。う。た。ひ。け。り。運。の。尽
 め。や。堤。の。端。も。足。を。う。ち。ま。じ。う。り。伏。お。た。う。所。を。山。三。郎。一。声。を。び
 て。斬。け。り。た。ち。ま。ち。首。堤。の。下。お。ま。り。び。お。ち。ぬ。麻。糸。を。引。り。て。と。び
 ぬ。り。か。の。首。を。さ。り。あ。げ。て。以。首。片。耳。を。け。り。深。層。の。三。平。お
 ち。ぬ。り。と。い。ふ。山。三。郎。その。者。も。ま。ま。小。伴。左。衛。門。と。い。ふ。と。お。の
 ち。け。り。ひ。ひ。り。刀。の。血。を。ぬ。れ。ぬ。ひ。一。息。つ。い。ぬ。も。な。く。又。来。り。る
 侍。も。お。る。と。如。く。の。打。扮。を。し。身。材。恰。好。以。度。ハ。匹。と。小。伴。左。衛。門。と。い。ふ。つ。

五條坂の堤み
おのて名護屋
山三郎復讐言
五人斬の圖

麻ざう

宇川



土子



かすがん八



前まへのごとく小名吉おなきちのらじりらじりの侍さむらいさうえふたうしといひりいりのさきの斬き小
 手てをかかる所ところを山三郎やまざぶろうとどろく切きりて腰車こしぐるま小斬きりけり直あたふたふ
 せど。三十歩さんじゅうほあめりや。麻あし花はなハツの者もの逃にげ去やとらええてあををか
 ておたふふ。切きの者もの前まへ小こまきまきれれ者ものの死あぶ骸が小こはぬぬづき。二につつふふありて
 どたふれけ。山三郎やまざぶろうの父ちちの切きりて左文字さもじの名作なまき斬人きりの劍法けんぽう手
 練ねんの早業はやわざががありゆことつりて麻あし花はな心こころ小感こころドドけり。山三郎やまざぶろう心こころにに伴
 左衛門ざゑもんのいふくところ麻あし花はな屍しかばねとありたぬて以もつ者ものハハ毎野まゐの蟹かに花はなを
 此こゝのこゝ山三郎やまざぶろうのいひけり。その者ものハハまじく伴ばん左衛門ざゑもんと名なひししふをぬも
 又また切きりていふくはし。四人よにんの者ものがが伴ばん左衛門ざゑもんをたすけて父ちちをお
 たる仇人あいつなりといふも。本人ほんじんをおおびるうちの安堵あんどなりと。つゞきそ
 来きづににちりちりちりつづき。やまのまりく待まちといふも人影ひとかげも又

谷山屋巻之五下

さき胸いとさるごと。此所一方口なり。外ふかろう。なれん。もあはれ。ふ
こころえぬ。まきや。い。出口す。せ。つ。ふ。け。れ。汝の
らふ。あ。う。そ。心。と。は。け。よ。と。ひ。捨。て。出口の方へ。は。て。し。て。わ。く。時。小
む。う。ふ。の方。より。一。乘。の。駕。籠。を。の。り。て。馳。来。り。け。り。駕。籠。を
ど。の。山。三。郎。が。刀。の。光。の。さ。ら。め。く。を。見。て。仰。天。し。駕。籠。と。地。上。ふ
打。捨。て。飛。が。ご。と。く。逃。公。ぬ。山。三。郎。駕。籠。の。う。ち。う。ち。う。ち。ふ。ひ
る。刀。の。ま。ら。さ。に。あ。て。垂。を。あ。げ。て。う。ち。を。え。ん。ひ。雲。ふ。稲。妻。の
夜。裳。着。た。う。侍。編。笠。を。さ。ら。り。終。り。て。駕。籠。の。う。ち。ふ。あ。り。し。れ。は
心。ふ。ま。び。い。ふ。伴。左。衛。門。我。は。是。山。三。郎。なり。汝。を。あ。て。上。父。の。宿
恨。を。と。ら。う。さん。と。それ。す。で。心。を。尽。せ。し。ひ。あ。ら。う。て。今日。唯。今。出。会
は。る。古。又。盲。亀。の。浮。木。ふ。あ。ひ。優。曇。花。の。花。咲。時。を。得。た。う。ふ

異。な。う。と。い。く。出。て。勝負。を。決。せ。よ。と。よ。が。る。伴。左。衛。門。一。言。を
こ。た。へ。ど。何。う。も。な。へ。けん。刀。も。抜。ぞ。駕。籠。の。う。ち。う。ち。う。ち。ふ。ひ。出
て。山。三。郎。が。胸。が。ふ。と。ら。し。は。れ。る。あ。ぞ。山。三。郎。刀。を。あ。げ。て。腕。を。ま。り
て。ち。ま。手。首。の。胸。に。残。り。呀。と。一。声。さ。け。び。て。た。ら。う。所。を。首。ち。う。ふ
お。落。し。の。そ。う。く。首。と。ら。し。あ。ら。折。も。曲。中。の方。ふ。人。声。あ。ひ。た。ぞ
こ。こ。え。け。し。若。首。と。奪。と。て。い。ひ。あ。ら。は。し。と。手。を。や。編。笠。ふ。包。て
た。ら。う。間。も。あ。ら。せ。む。曲。中。の。者。ども。提。灯。を。こ。ぼ。し。つ。き。手。や。棒。と
お。つ。ら。う。大。勢。四。方。を。こ。り。わ。く。狼。藉。者。を。打。た。へ。て。ら。や。繩。と
切。け。し。と。ひ。し。め。ぬ。山。三。郎。声。高。く。こ。ら。い。狼。藉。者。あ。ら。う。大。和
の。国。佐。木。判。官。の家。臣。名。古。屋。山。三。郎。元。春。と。い。ふ。者。父。の。仇。を。お
た。ら。う。り。あ。ら。う。む。あ。や。む。び。な。う。と。い。ふ。も。曲。中。者。ども。あ。ら。う。

古今圖書集成

曲中者どもあらい



其二

山三

麻子

此のた
は場をのづきん為のりりりちあらんこひひて同いど巴大勢
を打あつて敵たりんじたる所小麻呂大勢を巴りけて山三郎が
前ふちづき相公の大事のおん身なりぬれ等ふおひまむど。
見おつとゆへ也。あとの某がよれふとらうひゆびとて大勢ふむひ海
等うこいひくるふもことらうりなれば某人質とありてこふとまるじ。
は現方とびるをひくさてと解中まじとひあぞ曲中の者どもやうく
得心してあつとひひりけぬ山三郎夜のあけをそぬ間あとのせにて
小幡ふつとけり。初も山三郎の年来の宿志とこげ。いさこまをこ小
幡の里ふつとけり。以時己小夜のあけをそぬ。さを伴左衛門が首を父
の位牌ふ手向をやとるひ。汝のふひく年月又ちるに苦勞世ことよ
といひつ。編笠のうちよろし首を取出してえれば。といひふ伴左衛門

あのおびとて葛城が首あつて。その林夢現りといひて只あれとる
をうとちり。されあの大勢ふつとせぬれて心せしれ大急の時あつた。
心ばらじが。あつと手首とる。何ふあらんあつとまを
のあつと手くびとりたを返してえぬ。一通の唇とあつて居
ぬとける。いそいしくひびく。是乃かれおまの文なり。その文ふ
ゆく。妻ことば度不思議不殿ふらうちひ。おん父の仇ある伴左衛門
等と手引して。うさせやえとけつひけり。お前の日伴左衛門妻が
りらふ来りてや。さういふ今までのあつとさうじが。頃日偶まけつ。汝は和州
子守町の浪人高田桑右衛門が娘幼名と岩橋といひつる者のほ
あつとさあや。いりくそれふたが。いふ。我別腹の妹あて妻腹
なり。その妻とあありて懐胎のうち小桑右衛門がめらふ嫁。

此のつの方まで汝を産つるは、おれで父道玄の物語してさうな其
 のちへたえておとづれも因ざりしが、はくろのちを賣し、ちの替りだ
 もあつたうれば、仇あつた父の耻我耻りぬ、父おはを告て金
 子を調ト。おみおあがたひや、はくろをばし、おつと、おは昨夜
 ちくちくの金子を以て、我おとあがたひや、お伴左衛門のやさ
 う一所のちく、我おとあがたひや、お別腹の兄なることら、おは
 伴左衛門密おやさう、い、お名古屋山三郎といふ者、おちく、お
 ちく、お通ひ来るは、おれ、お我深き遺恨あれ、お汝手引しおせ
 ぬ、おと、おのちのち、おを、おを、お胸おさう、お兄の、おと、おは
 お夫と殺すと大罪あり、おんおおつとて、お兄をおと、おも、お大罪あり、おこ
 同士お縁つた、おつ、おは、お宿世の因果ごと、お我お一つの、おは、おは

御推量さされし。おとも、お生わ、お人、おは、おの、おと、お覚悟を、おさ、おわ、お
 ぶ、おの、お今宵、お伴左衛門等、おを、お打、おと、お通ト、おさ、お伴左衛門、おの
 かの四人の者と共、おおつ、おんと、おと、お用、おつ、おと、お別坐敷、おと、お
 おれ、お家内の者、おは、お伴左衛門、おの、お深く、お酔、おち、おは、おを、お告、おて、お妾、お国房
 おを、お駕籠、おと、おれ、お入、おさせ、お妾、お伴左衛門、おの、お妾、おお、お扮、おて、お駕籠、お乗
 出し、おん、おの、お手、おお、おつ、おと、お死、おん、お為、おど、おし、おの、おと、おの、おと、おと、お手、おお、お
 おん、おら、おる、おる、お伴左衛門、おを、お打、おと、おお、お不、おされ、おて、おの、おの、お恨、おを、おし、お
 何とぞ、お兄の命、おを、おん、おた、おと、おけ、おを、おされ、おし、おの、おと、お今生の願、おひ、お敵の妹
 と、お同、おあ、おの、おを、お後悔、おし、お玉、おん、おが、おせ、おめ、おて、お来世の夫婦、おと、おお、お不、おされ、おて、おと、お
 遍の御、お回、お向、おれ、おひ、おを、おる、おと、おし、お伴左衛門、おの、お已、お妾、おが、おの、お代、おを、おは、お
 の、おひ、おた、おれ、お妾、お死、おと、おとも、おあ、おは、お道順の損、おと、おり、おを、おん、おん、お手、おお、おけ

あふとも原のひちぢけの妻なれば。料とあるべし。夏もは。かこのに
度ことお不のれども。仕損せまはと胸とらうさて筆もたふと涙も墨
も散るべし。くさぐさや残しゆと。さあやふ記しつけて。おくのさふ

壁小生るりり。草のりり。まはは。眼とらひ。きりて

そのみ。辞世の歌をかきつけぬ。山三郎。読かりて十分おどろけ

志。思案。ふらふら。けり。良ありて。葛城。首をさうあけて。つ

え。鉄将。水をおじて。白歯とわり。みどりの。髪をさうり。たちを笑

が。顔。あり。山三郎。落涙して。あつ。昔。袈裟。御。刑。髪。と

ま。夫の。才。ふ。か。う。て。遠。藤。武者。盛。遠。小。殺。さ。う。の。母。と。夫。の。命

と。ま。又。為。り。り。は。葛。城。の。兄。の。命。を。た。と。けん。為。ふ。才。代。と。わ。ら。う。て

我。手。小。か。り。た。る。心。庭。袈。裟。御。前。あ。も。と。ま。く。お。う。ら。ぶ。う。と。ま。の。志

不便なりと。いづれ。晋の。豫讓。が。衣。を。刺。た。る。た。也。と。い。ま。ま。の。夏。も。は。ね。の。こ。と。く。

伴左衛門。と。た。ま。と。け。お。ま。さ。て。の。我。孝。の。道。た。ち。が。は。し。

昨夜の。夏。ま。さ。う。遠。国。の。逃。走。人。の。必。定。之。畢。竟。

我心。せ。ま。う。る。怪。小。名。告。め。け。て。返。答。を。ま。さ。う。と。あ。あ。や。ま。り。し。の。一。生。の。跡。

父の。仇。を。む。ら。ふ。と。者。の。所。為。ふ。あ。う。と。世。の。人。ふ。り。り。ぬ。ん。

父の。霊。魂。夢。中。小。告。む。ひ。一。昔。の。ひ。る。が。け。の。女。の。

か。の。妹。と。い。ふ。こ。と。を。告。ぐ。さ。う。べ。理。あ。う。小。左。も。る。う。し。の。い。り。く。ま。ぬ。

先。年。生。駒。山。の。藤。也。と。奥。方。と。う。づ。し。し。時。死。ね。ぬ。わ。ら。ぬ。

一。命。を。こ。れ。す。ま。の。さ。わ。ら。う。し。も。御。主。人。ご。の。お。ん。の。と。た。が。ぬ。父。の。

仇。を。む。く。ぬ。ん。為。た。う。と。あ。う。ふ。今。小。お。り。て。お。く。方。の。御。存。亡。も。さ。う。う。わ。ら。ぬ。

父の。仇。も。お。得。が。ら。ま。不。忠。と。や。い。ん。不。孝。と。や。い。ん。我。才。あ。ら。う。

心對鏡天昭白昼
節磨玉雪苦青春



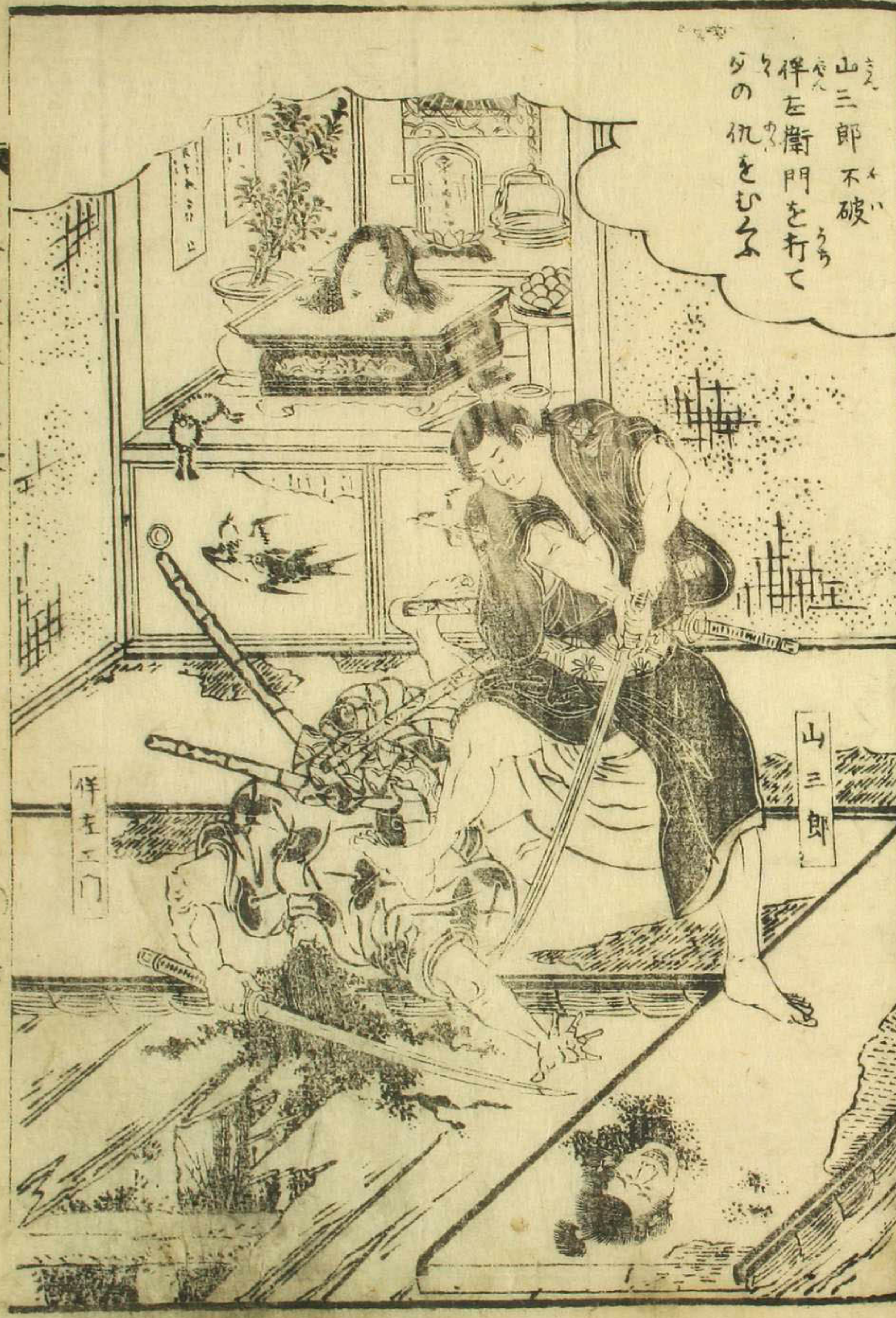
葛城辞世
壁丹生るのりすを草の
つらぬ恨をさひ斬てよ

愛想尽くぬ。そとも武運ぶくわん小尺こぶちくろみおたりしは腹はらかきこころを以て冥途みやと小
つらと。きりて親人おや小分おぶん説いせん之心を決けし。血ち刀やとさしてはて。やどく
腹はらおつとさたんとあたる折かしも外とのさよりやれをなまらぬ。あがりく
と声こゑうけて入来いりきる人をふるふ。是別人はなれびと小ありむ。則是梅津嘉門うめづかかど景
春はるちるこゆふあまぐさひの麻あし糸いとが第だ猿さる二に郎らうあどあつらる。山三郎
あまてふるひつかけさしむる。ひとまら刀やを鞆たもとおちていで
ひく。嘉門かかど上座じやうざ小打うち通とりせいで。猿二郎さるにらうが案内あんないあてはかれ家へ
すうし越こし別べつ更せい小ありむ。某たれあがむ。河内かふちの国くに金剛山きんがうざん小よと輝
仕官しきんの望のぞとたるといふも官領くわんりやう勝基公かつかきこうの懇望こんぼうのどく。去冬きふとう君
臣しんの契約けいやくは上京じやうきやうして今いま已ま勝基公かつかきこうの館たて小あり。軍師ぐんしをのちる
礼義れいぎあつげは。いよへの會ましさ引ひて何なに不足ふそくちの死しとちのさぬ。

夫不仕けてつるづれん。先年某が母病ふちやみし時御親父三郎
 左衛門どの某代の金子をわたりて母の命を救ふと此(此)洪恩心小
 銘ト。せうそ雨露をうらもその報せんものところひいひひちる。三郎左衛
 門どの圖打ふあひ玉ひ。和殿もゆいふあひとて。あひあひもあつ
 しが。それある様二郎がつかふよりては所ふからし住らばしうけ
 まわり。對面して某がろふ旨を告ぐやと忍出立あてまうて来つ
 が。途中あて人のあつるとまけけ。和殿五條坂の堤わし古傍輩四人の者
 をおへたぐへて葛城とやんり阿曾比と手おかけられちるはし。
 今腹まうんとせしとし。察する所入たむの誤とをぢてのこと
 おり。若さうあつた大あつる心得たがひとあつる。そのあひふとあつ
 ば。おとそ君父の仇とむくつゝむらりのいく度も耻と忍び命あん

つらふたどん。千里と走りつゝも。たがひせして仇をむくつゝ。孝道の
 ありあり。今自殺せんなど。疎忽のいふとあつとやといつ。山三郎其
 理ふふし。面目なれば。体あつと。嘉門門あつてひひける。桂之助あつ
 我為子主とあつる。そのいふれ。一席あつと。おと。そのあふいてあつ
 前どの。先年大和の国岩倉谷あて。おん首あつと。おん。某忍
 姿お打扮てあつと。あつと。我家あつと。あつと。火術の具とあつと。太刀取とあ
 殺し。かく方と奪取。今已に金剛山のあつと。家お母あつと。あつと。あつと。
 おつと。あつと。桂之助あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 若さうもあつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 夏は猿二郎あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 只は人の復讐のあつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。

あけて。伴左衛門たると万里の外小走るともたぐひ世立合の仇おと
 めんやしあるやうなうらぐらぐらだ。それ三郎左衛門の共恩とせめて
 和殿おむくりん為かりとつて山三郎大不安堵のふひとあてあぶ
 夏ゆざり時小猿二郎あつて嘉門が前小むひ出せしけり。さう
 ねど途中あてうけなぬりむが兄弟麻呂人質とあうとて五條坂お捕
 めをらほ。まづはくみ。いともうひあうづらうかづが嘉門の
 儀のまじもまづいふるまじとて懐中硯と取出て一通の證唇
 とあて。花押をよみて猿二郎おあへ。汝は一通をわの地の郡司の
 宅小持ゆけ。ある昔の復讐おまじとあてことあはるるあは
 とのふあぞ。猿二郎あつてたぐちおあへ。いそだゆ。嘉門まじ
 山三郎おむひ。某とらうとて一個の證人を捕へて佐木木館の騷動



山三郎 不破
 伴左衛門を打て
 くの仇をむく

山三郎

伴左衛門

の根本ハ執權不破道大が逆心より出て。継母蜘蛛手の方ハ悪意と薦
 て。実子花形丸と家督に。のちハ母子とも小じちひて。おのれ家と
 うびひより。濱名入道ハ味方せんたくをわすれあはせし。不日ハ某勝基
 の名代にして。かの館ハ立越道大を礼明して。悪意をあはれし。さうび挂
 之助ハのどを吐き出し。やまばやとあふちうと。心屋のさうびどかろとくね。
 山三郎三拜して。ぞとあびけり。嘉門ハ立あがりて。忍の他行るねびひ
 とも。おじ。おきひて。あはれす。さうびどかろ。口ハ出て。あはれす。ね。
 ちう。あはれす。おひん。供まつる。忍乗物とあはれ来る。山三郎門かろ
 して。礼とおとる。嘉門会釈して。乗物ハ乗らう。別を告げて。出のらぬ。
 かくて。山三郎ハ喜門ハ教誨より。て。やう。心ひひけ。昔田城ハ首とさう
 手水盤の水と。さう。血ハ。とあはれ。首と。仏壇ハ。さう。て。

不日をたき。水ハ手向鉦をきして。南无幽霊頓證仏果。菩提
 南无阿弥陀仏。あはれ。仏と唱て。居る。とけらふ。おひあけ。がる。床の下
 より。明晃々たる。剣のさ。危く。膝削を擦て。を閃さい。ぬ。
 山三郎。佐と。て。手の中。手向の水を。とりて。剣ハ。と。刀と。の
 水と。を。あて。う。居る。床の下。ハ。仕。と。返。た。う。と。さ。ひ
 けん。板敷を。め。む。と。お。あ。り。て。躍。出。た。う。何。人。ぞ。や。是。則。別
 人。ハ。あ。ら。ず。不。破。伴。左。衛。門。重。勝。あ。り。と。伴。左。衛。門。声。た。う。あ。あ。ん
 と。あ。ひ。り。の。急。今。朝。い。や。と。周。を。幸。ひ。汝。が。あ。と。は。は。け。来。り。て
 床。の。下。ハ。か。ら。と。始。終。の。こ。と。は。か。い。同。敷。草。履。打。の。宿。恨。と。い。ひ
 妹。の。あ。ら。た。つ。り。打。ち。う。そ。視。念。せ。と。い。ひ。つ。斬。つ。く。と。ハ。山。三。郎
 刀。を。抜。て。了。と。う。け。と。め。お。の。れ。と。来。り。て。灯。火。ハ。飛。入。夏。の。虫。こ。れ

せぬが海津景春まが負国小のひける先だちて子息桂之助在京の
 刺放佚无慙の不行跡おん館義政公のおん同小達し官領濱名道
 を以て内命あり巴小勘当の才とあるし今小のりてふく先非以
 悔おん館小對し奉り一切をたてたるふより勘当をゆじ家をかづ
 しておん才の隠居あるじとの内命あり桂之助甚当許免のえ
 へいそへの前月若ちも共小おしてよびむえいじと相のぶる負国
 小の答もせざら小道たのりて出がそれおろくはいもいてへの前月
 若ハ現在母の殊手を呪咀したる罪人小ゆいれたと桂之助ハおんじ
 あるともかの母子兩人をえおしありてハ御政道たがくゆん殊
 更おれり兩人ちくへ志とやどゆといひけしは殊午の方いふもさ
 ありおれり兩人妻と花形丸を呪咀したるまの官領職ありいふもさ

ありしめきるるん負国とのえりくまえあけぬくとおろく笑ていひぬ
 景春居だけたふありて兩人をことありて在俗の常言小盗人猛
 しとりの正小汝等ま支あるん道大知手小悪意をまめ花形丸の代小
 ありんと兩人をりて月若と呪咀しその人奸計を以ててへの前月
 若と罪おおし負国との命とのりて月若の首を打せんにいへ前
 を岩倉谷小引出して首打んとせしこと皆汝等が仕業ありと桂
 之助放埒の根本も汝兒子伴左衛門小のひつけてよめたるふりいひ
 なりたし分説ありやとのいへ膳ふと見道大少もひるまをそ
 当時官領職の軍師と尊敬せしとある景春公のおん詞ともおれり
 へいそへの前母子殊手の方を呪咀したるおの自筆の願書に
 あり証拠ありと某等が奸計とやまふい何等の証拠ありやとそれ

あざうけたるつし度ぬとひけしや。蜘蛛の手の方もその尾ふつき妾か悪
 意あざうけぬ濡衣まら夏よと。はづまきと居たりけ。時ふ景
 春はとたちて椽ささふ出。先刺やしはけあさるる繩つさささう
 らへ引のせせとよむや。けしび。庭ざらふ梅津が従者大勢ひさる
 背後より。名古屋山三郎礼服を着し。修験者頼豪院を高平小
 手ふらとあけ。麻糸猿二郎兩人小繩をささせて庭上ふひささく
 たも。勝手した蜘蛛手の方強悪の道太もさねをえて仰天し。あけ道て
 ぞあられけ。景春のいけら其あふその者を捕へ悪人そのの奸
 計をちくつちふ孔明せし。比場ふたてつてささるる証拠ふあさ。山三郎
 それさうと命トけぬ。山三郎立ち。刀の端をりつて頼豪院が
 一の繩をさありあけく。そく白快仕れとひつ。頼豪院面をさあ

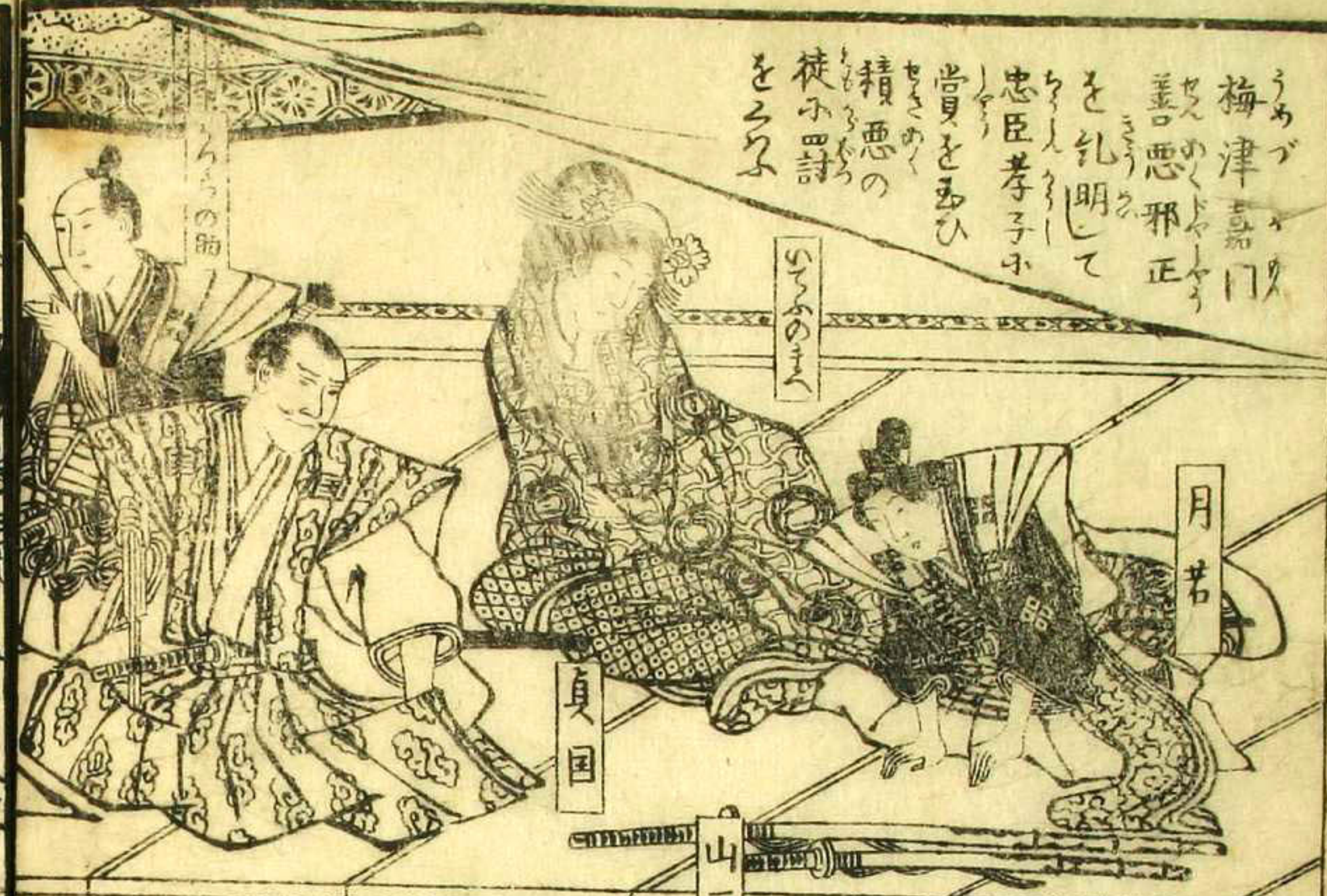
蜘蛛の方道太がたのこみよりて月若を呪咀し。たより詐筆の願唇を
 以てささふの前母子を罪ふおぼしたる本末を。ささるる白快し。けしび判官貞
 国をりめてこれを同。只あはれとて居たりけるが。たちまち怒気天ふさるのが
 了。道太が撃つううてぬぢたや。我多病あるを以て家更を汝おぬ
 たるふ思慮浅くして汝等ふあざむられたるうちを。ささるる内侍首ふあさ
 るもあさたるなうむ。たと我をいあざむくとも。いさで。青天をあざむ
 なるささるる大小をとりあけ。庭上ふ踢おぼしけし。山三郎飛りて
 おさへつけ。高平小手あざらるる。蜘蛛手の方以体をささ。積悪の罪
 のめさ。かじさるるひけん。懐剣を抜よりささるるのんど。ささるるささるる
 ぶしあぞ伏たりける。ささるる年来の隠悪の一時ふあさるるも。絶是白王
 天の罰し。あさるる所之。山登おそれさるる人。時小花形丸蜘蛛手の方の死骸ふ



梅津嘉門

花形丸

くさの方



梅津嘉門
善悪邪正
を乳明して
忠臣孝子小
尚更を玉ひ
積悪の
被小罰
をくらふ

いづのま

月若

貞国

山三郎



志々丸

さる二郎

大

頼豪院



いそぎ

くで

三八郎乃心

古今圖書集成

意を子の才としていさめしめぬ不孝の罪。おん由はしめされかし。あまの
 世にたえんとみりぬ。いさめしめぬ。其れとも同罪あり。分説のついでに
 母が自害の懐剣をひろひとり。己不腹おつきたてん。とてたを。
 梅津景春おしめり。和殿のついでに実義ある。其れおしめぬ。あまの若者小
 武士道をたててささる。いさめしめぬ。其れおしめぬ。悪意の母おつた。縁
 ちればせん。まじり。自殺をたてしめり。剃髪。深衣。お姿をたて。母の菩提を
 法語一巻あり。其れ今ハ官領。おはして。軍務。小官。る。おはして。禅法。と修
 せん。いさめしめぬ。其れ法語を和殿。お附。とて。いさめしめぬ。今より。禅学。とて。いさめしめぬ。

教外別傳の妙をさしめり。直指人心の奥をささめりて。のち。いさめしめぬ。名僧知識。と名
 をあけて。今の汚名をささめ。ついで。いさめしめぬ。花形九剝髮。して。法名を胸。月。といひ。
 をささめ。いさめしめぬ。善佛。と。いさめしめぬ。花形九剝髮。して。法名を胸。月。といひ。
 のち。いさめしめぬ。一休禪師の弟子。となりて。ついで。いさめしめぬ。大悟有徳の知識。となり。
 西より。月。のひろし。を。その。終。小。因果。がつ。ひの。いさめしめぬ。あり。となり。
 といふ。歌。を。詠。じて。在。小。因果。禪師。と。稱。せ。し。けり。と。いさめしめぬ。や。さ。て。景。春。蜘蛛。
 の。方。の。屍。を。とり。の。け。させ。負。国。小。い。ひ。けり。の。道。大。が。悪。意。の。源。い。濱。名。入。
 道。不。い。つ。ひ。入。道。の。権。威。を。以。て。お。ん。身。を。押。籠。一旦。花。形。九。の。在。と。は。
 つ。あ。い。父子。とも。い。し。な。ひ。て。お。の。家。を。う。り。び。濱。名。入。道。不。一。味。と。いさめしめぬ。
 結構。あり。夏。あ。れ。け。今。已。不。勝。基。公。と。濱。名。と。確。執。不。切。い。在。の。中。
 つけりの時節。あり。濱。名。不。く。は。した。る。道。大。の。い。さめしめぬ。ひ。不。志。官。領。

五條坂神林のあり
名古屋山三郎が飯茶と
祝してあまを
山三郎
の舞妓と

かろ
山三郎
銀子
衣服と

ついで
神林夫婦

あまの
あまの
あまの
あまの

此
一
圖

八重垣

摸擬
一
畫
屋
之
繪
卷
物
之
圖



神林夫婦

乗物小打のり。行列とせせてつらつらして。さうなほど官領の館において。
 再又道友を礼明あつて。一味の輩を尽く捕へて頼豪院と共誅戮し
 ぬ。道友の殊に大罪の者あり。刑をくりへぬ。さて名古屋山三
 郎并小佐々良三八郎夫婦。娘麻呂孫二郎等までめされて。その忠義
 孝行貞節を御賞美あつて。それくみそくさぐさの賞金をなぬりて
 けし。皆く感涙をおしてつらぬ。さて判官貞国薙髪して桂之助の家
 をのぼりて平郡の別館ふうらつて。住名古屋山三郎を執権に。父三郎左
 衛門が禄小道友が禄をくりへて与へけし。昔十倍して富る。父と成
 麻呂孫二郎小禄をのちとじめて忠義を賞づけし。二人面目を
 施して喜びぬ。又浮世又平の百蟹の巻物を一覽して。画道の奥
 妙をさる。師匠戸佐正見の勘気をあつと。戸佐又平重起と

名告梅津吉嘉門の吹拳より義政公の絵所とちうて。妹於菴の曾て兄小
 学びて自然と画道の妙をさる。めたぬ。母おつと。絵と稱してその名
 高くさる。佐々良三八郎の抜群の忠臣あり。桂之助あり。禄は
 あつんとおびし。今ハ桑門の才あり。とて禄をうけさせぬ。せん
 ほどなく。唯數百金をあつて。お小座せざる。なぬりのありとて。再
 三辞し。けし。あつて。なぬりて。その金を以て長谷部雲六が
 妹ハ重垣をおびし。家小養おさぬ。その誠心を感じての
 こと。又とど。さて山三郎ハ葛城が志あり。神林がり。お金あり。お
 して。追福は。一生妻をめら。とちうひける。は。三八郎お
 同て。のち。不孝の弟。あり。か。ハ重垣をおびし。とて。妻と
 あり。む。お男子をまけ。後。おらぬ。名古屋小山三郎梅。

昔註縮妻表紙卷之五下冊終 大尾
 小山三出雲の神子阿国といふ舞姫嫁妻といふ歌舞妓躍
 狂言といふ喜成始たりゆまよりの後編小詳ありし発兌の時以
 待得てるるを。不破名護屋の文字小自然不破名護屋と云
 訓あり。此御史おととのみと記吉兆ありと云や
 舞姫嫁妻といふ歌舞妓躍

江戸

醒醒齋山東京傳著 

一陽齋歌川豊國繪 

書賈 本所松坂町平林庄五郎蔵梓

製本處

大藏心齋橋通北久寶寺町

四町目十八番地

前川源七郎

